

こんにちは

日本共産党市会議員

森田 ゆみ子 です



2020/6/28 号

日本共産党京都市会議員団 TEL 075-222-3728 FAX 075-211-2130

市会議員団ホームページ <http://cpgkyoto.jp/> 森田ゆみ子ホームページ <http://morita-yumiko.jp/>

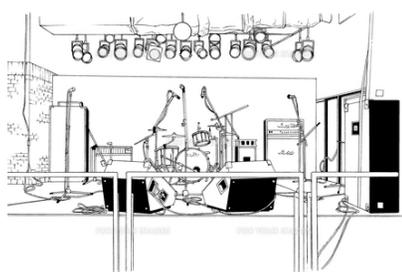
文化環境委員会で一般質問しました

京都市は“いきいき活動センター”の在り方について平成31年から今年3月までの間、7回にわたり評価委員会を開催し、この度答申を発表しました。元々このセンターは同和問題の解決に向けて旧同和地区の生活改善や生活支援を目的に昭和11年に設置されました。平成14年、同和問題の特別措置に関する法律が失効され、市民一般の交流活動の振興を図る施設としてコミュニティセンターと改め、申し込み制で誰でも無料で活用されてきました。平成23年度からは、地域住民の活動を支援するということで1時間100円で使うことができます。市内に13ヶ所あり、南区は4ヶ所あります。しかし他の行政区に比べ稼働率が低く、左京区80%に比べ、吉祥院27.8%・上鳥羽北部20.9%・上鳥羽南部18.5%・久世5.6%です。

ンジメント、太鼓などのサークルが使っておられ、利用するきっかけの問いには「知人から紹介された」がもっとも多く「活動場所を探していた」という意見が多くありました。やりたいことがあって場所を探していても1時間100円で使えるこんないい施設があることを多くの市民が知らなかったということです。上京、右京、西京、山科は“いきいき活動センター”がありません。私が生まれ育った大阪には区民ホールがあり図書館や会議場は使えます。発表会で踊ったり歌ったりが思い出されます。京都市は市民が自由に使える公民館がほとんどありません。その代わりになる施設として、すべての行政区の市民に活用しやすい場所に安くて便利な“いきいき活動センター”を作るように求めました。



文化の灯を消さないために



6月17日に小劇場やライブハウス関係者と懇談を行いました。イベント自粛で休業していましたが、今後コロナ対策を行いながらの営業では収益が見込めません。ネットによるアーティストの配信などもありますが、小劇場やライブハウスは生の演者と客が一体となって生み出される良さがあります。文化の都市だとして文化庁が京都に来ようとしている今、文化の灯を消さないためにも文化に特化した持続化給付金が必要です。

森田ゆみ子活動日誌

衆議院近畿比例代表予定候補者リレー宣伝

6月21日、通常なら東寺の弘法市があるのですが、コロナでイベント自粛。タワー前の街頭宣伝も密集しないようにと間隔を開けて参加しましたが、皆さんの訴えは力強く通行人も足を止めて聞いていました。



オンライン地区党学校を視聴しました

6月20日、みなみセンターで“youtubeライブ中継・南地区党学校”を視聴しました。河合地区委員長が改定綱領を世界情勢の捉え方、未来社会の建設について分かりやすく話されました。コロナで集会や学習会で、複数の人が集まるのが難しくなり、新しいライフスタイルとしてテレワークやオンラインが増えそうです。先日、まん中世代の地区代表者会議をオンラインで行いました。南地区では、私と下京の鎌野市議が1つのパソコンを使って、あ~でもない、こ~でもないとなれない操作に戸惑いながら、府下の担当者と会議が出来ました。片道数時間かかる人も、これなら交通費も時間もかからず気軽に集まることができます。地区党学校のオンライン視聴もあと2回あります。是非視聴してみてください。

